

山家悠紀夫『景気とは何だろうか』岩波新書 2005年

第1章 景気はなぜ波を打つか

疑問点・論点

「供給が需要を上回ることになれば、次に起こることは供給者が供給量を減らすということだから、その下で、今度は逆の連鎖が生じる。すなわち、一度悪くなり始めると連鎖的に、また加速度がつく形で景気は悪くなり続ける。」(39頁)と記されているように、一度でもマイナスの波になれば需要と供給が一致するところまで歯止めがかからなくなってしまう。しかしこのような経済の波は、市場経済のもつ本質(需要と供給の不一致)からして簡単には無くならない。その上で、私たちはこの波とどう上手く付き合っていけば良いのだろうか？

A 景気の上昇を規制を敷くことで抑え、景気の変動を抑える。もし景気が下向きになった場合、財政政策などで対応。

波と付き合っていく方法として、我々消費者が市場経済の本質を理解。景気の変動に予測をたて、行動していく。

B 政府が過去の波から現在の状況、これからどうなるのかを予測し臨機応変に政策を打ち出し、不況の波の幅を小さくする。また消費者に過度な節約をさせない。

D 需要が多くても増やせる供給量を規制し、景気の波を緩やかにさせることで少しでも被害を少なくさせる。

C 不況になったとき、より良い金融政策で金利を下げ、財政政策で国債発行を減らし、市場に流通するお金を増やす。

A → C 不況時に同様に扱う

D → A 消費者の本質を理解する

B → B 消費者の過度な節約はどうか

C → A 本質的理解